

「新之助」生育速報 No.7

平成30年7月30日
村上農業普及指導センター

1 生育調査ほ・実証ほにおける生育状況（7月30日現在）

生育概況

草丈:並 茎数:やや少 葉数:やや遅～遅 葉色:やや淡い

- 茎数は指標値に比べやや少なく、葉色はやや淡い。
- 葉数は指標値より遅れているが、幼穂から見た予想出穂期は、前年より3日程度早い（8月14日頃）。
- 一部のほ場で、葉いもちの発生が認められていたが上位葉への進展は少ない。

新之助生育調査ほ・実証ほの調査結果（7月30日現在）

調査場所	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
関川村下関(関川)	5月15日	74	431	12.5	30.6
村上市牛屋(神林)	5月15日	75	493	13.5	29.6
村上市岩沢(朝日)	5月20日	73	419	13.9	29.5
平均	5月16日	74	448	13.3	29.9
指標値	5月15日	72	485	14.0	33.5
【参考:前年平均】	5月17日	74	474	13.5	33.4

2 今後の技術対策

当面の管理のポイント

◎**葉色が淡くなっています。2回目の穂肥を適期にしっかりと！**

- ・2回目の穂肥については、出穂12～10日前（1回目の8日後頃）にしっかりと施用する。
- ・2回目の穂肥量は、1kg/10aを基本とするが、葉色が淡く栄養凋落が想定される場合は、1.5kg/10aを上限（1回目と併せて3kg/10a以内）に施用する。
- ・出穂10日前以降の穂肥は、食味を低下させるので原則施用しない。ただし、2回の穂肥を施用しても、葉色の維持が困難な場合は、追加の穂肥を検討する。

◎水管理

- ・ 飽水管理を継続する。特に稲体は、出穂の10日前頃から出穂・開花期にかけて最も水を必要とするので水が不足しないようにする。
- ・ 異常高温、強風、フェーン時には速やかに湛水し、稲体の急激な蒸散防止に努める。
- ・ 輪番給水地域は、気象予報等に十分注意し、異常気象が予想される場合は給水可能な日に十分湛水するなど事前に対応できるような水管理に努める。

◎いもち病対策

- ・ 一部のほ場で葉いもちの発生が認められているが、最近の高温・無降雨により上位葉への進展は少ない。
- ・ 穂いもち防除は、葉いもちの発生がない場合でも必ず実施する。粒剤で出穂前の適期に水面施用するか、粉・液剤で出穂期直前と穂揃い期の2回の防除を実施する。上位3葉に病斑が認められる場合は、穂揃い期10日後の3回目の防除も実施する。
- ・ 共同防除は、新之助の防除適期とならない場合が多いので、その場合には、新之助の適期に合わせて防除を行う。

◎カメムシ防除(斑点米防止対策)

- ・ 県病害虫防除所調査では、中晩生品種でも加害が認められるアカスジカスミカメが下越で平年比やや多い状況です。
- ・ 農道・畦畔の定期的な草刈りと本田内の雑草除去及び薬剤防除で斑点米の発生を防止する。